

研究課題 (テーマ)		富山県の野生植物の多様性解析および日本海要素植物の起源と種分化に関する研究	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	准教授	鈴木 浩司
	教養教育センター (現所属：医薬品工学科)	准教授	古澤 之裕
研究結果の概要			
<p>富山県内の野生植物の多様性を明らかにするために、県内の各地域（県東部、県中部、県西部）から、また、山地および海岸付近での野外調査により、地域の植物相の把握およびサンプリングを行った。これらのサンプルについてはDNA解析を行っている（継続中）。また、文献資料等により県内の野生植物、とくに日本海要素植物の分布についての把握を行った。</p> <p>各種文献資料（富山県植物誌や富山市科学博物館収蔵資料等）、および野外調査により日本海側にだけ分布している日本海要素と呼ばれる植物群の県内における分布状況や生育環境の把握、また、解剖学的・形態学的観察から、日本海要素植物の対照となる主に太平洋側（または全国的）に生育する近縁種との違いも把握することができ、富山県の野生植物の多様性の理解を深めることができた。</p> <p>県内各地域での野外調査の結果、被子植物約250種、1300標本（サンプル）を採集した。これらのサンプルについては葉緑体DNAや核遺伝子のDNA配列情報を用いた解析を行った結果（継続中）、種によって程度は異なるが地域間での変異が見られた。さらに、海岸地域の植物相の調査も行い、過去の文献資料の記録と比較することで、海流散布等による植物の分布拡大（または縮小）過程を明らかにした。</p> <p>日本海要素植物については比較的普通に見られる種として、キバナイカリソウ、ミチノクエンゴサク、ホクリクネコノメ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン、オオハシカグサ、クロバナヒキオコシ、アキギリ、タチアザミ、クルマバハグマ、オオバクロモジ、ウゴツクバネウツギ、ケナシヤブデマリ、ユキツバキ、ヒメアオキ、イワウメ、ユキグニミツバツツジなどがあげられ、それらについては特に重点的に調査を行った。</p> <p>本研究の一部については以下の通り報告した。</p> <p>鈴木浩司. 2021. 富山県における海岸植物の分布の現状. 富山の生物 60 : 67-73.</p> <p>鈴木浩司. 2021. 十二貫野用水路（黒部市宇奈月町栃屋）における里山植物の開花フェノロジー. 富山県立大学紀要 31, 23-33.</p>			
今後の展開			
<p>富山県の野生植物の生物多様性を理解するには、その周辺地域との比較や太平洋側に分布する近縁種との比較が不可欠である。今後は周辺地域や太平洋側での調査・サンプリングを行うことで、富山県の生物多様性を明らかにする。また、日本海要素植物と対照種（太平洋側の近縁種）を温室や野外で同所的に栽培することで、日本海要素植物で見られる形態の変化や生活史の違いがどのように現れるのかを調査する。</p>			